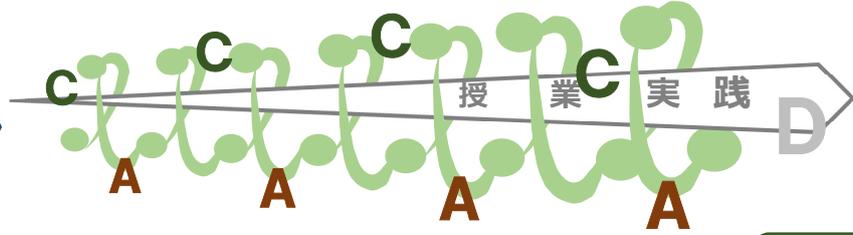


P 指導計画
終末に
「何ができるようになるか」



資質・能力が育まれ
学校の教育目標が
具現される。

C 「主体的・対話的で深い学び」の視点

児童の
つぶやきや
様相から Check!

- ☐ Check 5
・「英語を使ってできるようになったこと」を自覚させているか
- ☐ Check 4
・内容面と言語面の伸びを生み出す活動後半か
S: Hello. My name is Hida Taro in Takayama JHS. We want to tell you good food in Hida. Please give us time.
I think Hida beef is good because it's very delicious. Do you like beef? Hida beef is best beef in Japan I think. If you try Hida beef, it will be one of good memory for you.
- ☐ Check 3
・内容の質を高める中間交流・指導になっているか
T(S)What is the goal? (目的に立ち返る) T(S)Why is Hida beef good? (内容を膨らませる)
T(S)Can foreigners eat beef? (場面、状況の確認)
- ☐ Check 1
・目的や場面、状況等がある言語活動を設定しているか
「外国人に飛騨の魅力を伝えるのだな」
「飛騨ならではの食べ物や場所などを PR したいな。」
- ☐ Check 2
・既習内容を想起させる活動前半であるか
S1:I think Hida beef is good.
S2:Nice. I think Gasyo stlyle house is good.

A 授業改善のポイント

- ☞ Check 1
目的や場面、状況等がある自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動の設定 (内容が先、英語が後)
「飛騨の魅力を PR する」⇒目的を加えましょう。
「不定詞を使って、飛騨の魅力を PR する」⇒言語材料はあくまでコミュニケーションを支えるものであり、伝える内容を重視しましょう。
<一例>
目的：飛騨の魅力を世界に広めるために
場面：高山市内研修での外国人へのインタビューの場面で
状況：観光客に飛騨の魅力を PR する
◆児童の意欲や主体性を生み出します。
- ☞ Check 2
既習内容を想起させる活動前半 (活動が先、指導が後)
・J T E (教科担任等) と A L T と児童とのやり取りを通して、本時の活動の目的や目指す姿を明らかにします。児童を巻き込みながら、やり取りすることが大切です。
・最初に指導するのではなく、まずは言語活動に取り組ませ、その後児童の学習状況を見届け、必要感に応じて指導します。
◆既習内容の想起や主体性につながります。
T:What is the good food in Hida?
S: Hida beef, Tsukemono steak, mameita, Sushi,
T: Nice. What is the good place in Hida?
S: Old town. Shirakawa-go, Gero spa, Furukawa station.
T: What are these things interesting for foreigners?
S: Hida beef, Old town and so on.
T: Let's tell good things of Hida to foreigners!

- ☞ Check 3 (飛騨地区の重点)
内容の質を高める中間交流・指導
・前半の活動で把握した児童のよさ (内容面と言語面) を共有したり、共通のつまづきや誤りを修正したりします。言語材料の定着や共通する誤りの修正だけでなく、内容面のよさや高まりに焦点をあてた交流・指導を行いましょう。
◆内容の質の高まりや正確さの向上につながります。
- ☞ Check 4
内容面と言語面の伸びを生み出す活動後半
・「外国人にどんな飛騨の魅力を伝えることができたのか」という視点で指導と振り返りを行いましょう。(内容面)
・「外国人に飛騨の魅力を伝えるために、どの既習表現が使えるのか」という視点で指導と振り返りを行いましょう。(言語面)
◆英語で思考・判断・表現しながら知識・技能を身に付けていく授業の具体が実感できます。
- ☞ Check 5
「英語を使ってできるようになったこと」の自覚
・Small Talk の継続や単元終末や学期のまとまりにおいて、目的や場面、状況等が明確なパフォーマンステストを行いましょう。(例) アメリカからの留学生に自分の学校生活を説明する
・単元終末や学期のまとまりにおいて、「英語を使ってできるようになったこと (学習到達目標・CAN-DO リスト)」を視点に振り返りましょう。
◆児童の英語力の把握とコミュニケーションを図る (基礎となる) 資質・能力の育成につながります。

ここに示したものは、あくまでも一例です。周りの仲間の実践や、学習指導要領解説編なども参考にして授業改善を図りましょう。

